

# アトリエ 琉游舎 だより 230号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)  
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2026年5月6日発行

## 薫風や 新芽ひらくる 朝の靄

AI出琉

- 「薫風」は、初夏に若葉の香りを運ぶ、穏やかでさわやかな南風を指す季語です。俳句や手紙の時候の挨拶でよく用いられ、「風薫る」「薫風自南来」などと表現される言葉です。二十四節気では立夏から芒種の前日まで（5月初めから6月中旬）を初夏の候と呼ぶようです。
- 薫風が吹くこの季節は、あらゆるいのちが活性化する季節です。朝もやで淡い緑にけぶる雑木林を眺める早朝の散歩は、一年の生命力を全身に纏った心地になります。そこで一句ひねりたくなるのですが、作句の嗜みがない私はAIと合作することにしました。「薫風を使ったオリジナル俳句を作りたい。新芽の淡い緑の雑木林、早朝の朝靄の中、どんな1日の始まりか。」とAIに質問したところできた俳句が「薫風や 新芽ひらくる 朝の靄（もや）」です。
- 丁寧なことに句の内容まで解説してくれます。「初夏の爽やかな風がそっと吹き、新芽が今日という一日を迎えるように開いていき、朝靄の中に今日が静かに始まっていく『静けさの中に、今日がそっと芽吹く瞬間』その空気を俳句に凝縮してみました。」とのことです。
- 質問をインプットして5秒ほど、ほぼ瞬時の作句でした。私はこの句の評価をする力量はありませんが、少なくとも私自身が瞬時にこのような句をひねることは無理だと断言できます。
- AI合作のこの句には、私自身の表現欲求や、表現すること自体を楽しむ創作の喜びと呼べるものは残念ながらありません。作品、文芸、芸術として人に提示して評価の対象となるようなものばかりが創作と呼べるならば、もはや創作は人ではなくAIが行なうもののようなのです。
- 創作物は無から生じるのではなく、今までの創作の蓄積の上に作られるものです。評価や経済的利益、名誉名声のために創作があるならば、AIの得意な過去の蓄積に、完全なオリジナルと指示された作品には、人は太刀打ちできないでしょう。それは創作物でしょうか。作者は自身の精神、肉体、生活、時間の全てをつぎ込んで形とすることが創作の喜びのはずです。それを鑑賞者は自身の精神と肉体に投影して聞く、見る、読む楽しみを得るのでしょうか。創作者の喜びのないAI創作物に、果たして受け手は喜びを感じることができるのでしょうか。

写経会 6/7 (日) 13時半 読書会 5/12・5/26 (火) 13時半

## 狂言綺語…何が分からないかを正確に知ること

私は一ヶ月に一回ほど古本のブックオフに行き100円の文庫本や新書版を5.6冊買い込みます。アマゾンで買うときは、例えば今読んでいる本に引用され、興味を持ったものなどを買うので内容にがっかりすることは殆どないのですが、ブックオフの100円本も結構高い頻度で私の問題意識に合うような掘り出し物が見つかります。内容や価値、稀覯本などで値段設定されている古書店に比べて、値付けの根拠が売れ筋、きれいな、新しいなどでつけられているようなので、10年、20年前の本でも私の興味を引く本が、100円で売られていることがあるのです。その様な本は、時の変遷で色あせることがない内容なので私は重宝しています。

現在私は、アイデアも理性も仏の智慧からも解放されたと宣言したことで、何かの為に考える、判断する、記述する、伝える、行動すると言うことからも解放されました。それは誰にも、何事にも束縛されない無限の自由を獲得したことだと思っていました。しかしその結果、何をしてもいい、何もしなくてもいいという毎日を送ることは難しいことだということも分ってしまいました。ありのままの日々を送ればいいとは言っても、それは何も考えず、ただおなかをすけば食べて、眠たくなれば眠るだけでいいということでもなさそうなことが、今更ながら分ったということ。それならば、今までと異なる新しい毎日の過ごし方があるのかと、しかしそうはいっても、毎日おなかはずくし眠くもなります。本も読みたくなれば、興味が湧いたことを知りたくもなります。そこで少し分ったことがあります。無限の自由を得た後も、私は人に会えば話をし、人から請われれば、できることはやってみようかなと思ひ、行動に移しているのです。つまり何も日々の行為は変わっていないということ。ただ、こうしなければならぬとか、そうすることが正しい、これは善行だ、これは悪行だと判断する意志によって動くのではなく、自然と体や頭が動いているのではないかと思ひ始めたのです、つまり、判断や意志と言う後天的あるいは他者から与えられた規範に頼るのではなく、自ずから然らしむ自然（じねん）の行為と言うものが少なからず私の心身も分ってきたようなのです。

そんな私の現在を肯定する本に、ブックオフの100円本で出会うことができました。マイケル・サンデル著の「これからの『正義』の話をしよう いまを生き延びるための哲学」です。この本はハーバード大学の政治哲学の講座科目「正義 (justice)」の講義をまとめたもので、大学でのあまりの人気ぶりに講義がテレビ番組で一般公開され、日本でも2010年にNHK教育テレビで「ハーバード白熱教室」として放送され評判となった著作です。しかし私は「正義」を唱える立場や人達に胡散臭さを感じて、興味もなく素通りしてきました。ところが昨今の「正義」を掲げることで全ての行為が正当化されるという、権力行使の実体を見るにつけ、西洋哲学は「正義」をどう定義づけるかに興味を覚えて手に取ってみることにしたのです。結論を言えば、哲学の最高知を駆使しても「正義」を定義できず、いまを生き延びるための術も与えてくれませんでした。

この著作を簡単に要約してみます。サンデル教授は「正義」を考える際に3つのアプローチを提示しています。一つ目は「功利主義」です。「最大多数の最大幸福」を目指す考え方で、行為の結果として生じる幸福や効用を最大化することが正しいとする立場です。しかし少数者の権利侵害や幸福の比較不可能性という問題を抱える。と指摘されます。2つめは「自由主義」です。これはさらに「リバタリアニズム（自由至上主義）」と「リベラリズム（平等を重視する自由主義）」に分けられます。前者は個人の選択の自由を最重視し、後者は公正な機会均等を重視します。この個人の自由と自己所有権を最重視する考えは、しかし臓器売買や貧困下の「自由な選択」は本当に自由なのかという批判があると指摘されます。また市場原理がすべてを決めてよいのか。兵役制度や代理出産などを例に、市場では扱えない価値（尊厳・美德）があることが指摘されます。3つめは「共同主義」です。これはアリストテレスの思想を源流とし、カントの説く動機の純粋性と人間の尊厳を重視し人を手段として扱う行為を否定する道徳論。ロールズは無知のベールの思考実験から、平等で公正な社会原理を導く考え方。そしてアリストテレスの説く共通善や美德を重視し、社会の一員としての責任や連帯を強調した考え方から導き出される「正義」、つまり「正義は社会が何を価値あるものとみなすかに関わること、だから正義は共同体の価値観と切り離せないもの」がサンデル教授が支持する立場のようです。と言うようなことはなんとなく本書から読み取れたのですが、それをどうやって実現するか、つまりどうやって行いに導くかということに関しては私は理解できなかったもので、それをまたAIに聞いてみたところ、本書のメッセージは「共通善や美德を重視し、社会の一員としての責任や連帯をしていくこと」で実現しようと言うことらしいのです。社会が国や宗教、民族単位で存在する限り、アリストテレスの時代から2000年以上かけて実現できなかったことをこれから実現できるとは、私は到底思えないのです。

分からないことを分ろうとして、悪戦苦闘してきた歴史が西洋哲学とするならば、お釈迦様は分からないことは「無記」と言って語りませんでした。例えば霊の存在や死後のことなどです。分からないことを分からないと言えなかった西洋哲学は、「正義」と言う概念はないと語る覚悟がないと、私はサンデルの著書を読み確信しました。知と情に自ずから導かれた意ではなく、意によって導かれて知と情を規定することが西洋哲学の語り口であるような気がしてなりません。例えば「正義」の意志を実現するためには、知と情はどうあるべきかという語り方です。しかしお釈迦さまは何が分からないかを正確に知っているから、分からないことは無記と言って語らないのです。語ることの無意味、それが苦からの解放に意味がないどころか益々苦を強めてしまうからです。もし世界が、正義の概念はない、分ろうとしても分からないから正義は無記であると言えたら、ひょっとして争いがなくなるかも知れないと、反面教師としてこの著作を読んで夢想してしまいました。